

2-4 地図資料の用紙劣化対策についての一提言（話題提供）

源 昌久（淑徳大）

はじめに

本稿のタイトルに記載された話題の発端は、つぎの通りである。東北大学所蔵の外邦図中、複数枚あるものはダンボール箱約500箱に収納されている。これらのダンボール箱は資料保存上、問題を有するので中性ダンボールによって作製されたケース（箱）に換えてみてはいかがかという企図から始まった。筆者は、資料保存の専門家ではないが、本研究会代表 小林茂教授からの依頼により、今回調査をし、標題の話題について若干述べてみたい。資料保存の研究者・関係者の視点からみると、おそらく拙稿の内容は常識的レベルであろう。

地図資料（一枚もの）劣化の原因

地図資料は、図書形態の資料と異なり、製本装丁の部分についての劣化問題は生じない。

（1）地図資料そのもの（内部）にあるケース

用紙の酸性化 化学的要因

（2）地図資料の外部にあるケース

- ・ 地図の取り扱い方の不慣れ
- ・ カビの発生
- ・ 生物による虫害等（例えば、シミ）
- ・ 不適切な修理材料（例えば、接着テープ）の使用
- ・ 温度と湿度の急激な変化

- ・ 紫外線その他の光線

（1）と（2）とが複合的に地図資料へ劣化作用をし、進行を早める。

資料保存の原則

原則としては、地図資料原形全体をそのままに保存しておくことである。多くの場合、このことが後で役立つことにつながる。地図資料のデジタル化（媒体変換のひとつ）も考えられるが、それは長期保存にとり難点（例えば、信頼性、コストの問題）を有している¹⁾。

保存方法

- ・ 保存（容器）箱への収納
- ・ エンキャプシュレーション（大型のパウチ）
- ・ 媒体変換
- ・ 専門的保存修復処理（クリーニング等）
- ・ 脱酸化処理

提案

- （1）外邦図の総合目録を編纂し、全国レベルでの重複調査を実施する。一表示区域一図幅ずつ選択する。
- （2）選択された地図で補修が必要な場合、保存修復処理を施す。
- （3）脱酸処理をし、調湿材を付した保存容器に収納する。なお、保存環境（室温 25度 相対湿度 40%）は大事である。

(4) 報告書を作成する。作業に用いた材料，
処置法を今後の保存のために記録する。

補節 ボドリアン図書館 (Bodleian
Library) の保存修補部門を訪ねて

筆者は、昨秋、2003年10月3日に英国
オックスフォード大学 (University of
Oxford) ボドリアン図書館の保存修補部門
(Preservation & Conservation Division)
²⁾(1978年設立)を訪問した。この訪問の
目的は、地図の保存方法の現地調査をする
ことにあった。ボドリアン図書館は英国の
コピーライト・ライブラリーのひとつであ
り、オックスフォード大学の中央館である。
保存修補部門は、マップ・ルーム (1946年
に Map Section 創立) と同じ新館に所在し
ている。保存修補部門補修製本課主任
(Superintendent of the Conservation) ロ
バート G. ミンティ (Robert G. Minte) 氏に
筆者は説明を受けた。保存修補部門は8つ
のセクションから構成され、各々が独自の
役割を果たしている。

(1) 資料の保存状況

本マップ・ルームの書庫に入室し、今回、
保存の観点から地図資料を観察し、説明を
うけた。

書庫内では地図資料 (一枚もの) の保管
は、水平 (横) 置きに保管することを原則
としている。しかし、スペースの問題もあ
り、製本して縦置きにしている場合もある。
地図は水平に収納する専用のキャビネット
(スチール製および木製) に保管されるもの
(一部、垂直式のものもある) や次項 (2)
でのべるような箱に収納されているものも

ある。専用のキャビネットに保管する際、
アルカリ緩衝剤を含んだ間紙を地図ごとに
挟むことはスペースを有するために行って
いない。その代わりに、一番上に収納され
ている地図の上に透明シート袋 (ポリエス
テル製) を置き、それが保護の役目をは
たしている。



写真1: Map Folder

司書ないし事務員が一枚ものを閲覧室等
に地図を運ぶ際、Map Folder (大型のバッ
グ (写真1)) を使用するとのことであった。
酸性紙や破損した紙への処置も本部門で



写真2: Urauchi 中の地図

対応している。筆者が見学を行っているとき、
作業室の入り口脇に “Urauchi” (裏打

ち、京都の表具師の指導により習得したとのこと）中の地図が据え置かれていた（写真2）。また、壁面には日本製の刷毛が懸けられていた（写真3）。

（2）保存（保管）箱

マップ・ルームの書庫内では中性ダンボールを使用した各種の保存箱を活用していた。本部門は作業場（Workshop）を備え、保存箱を生産している（写真4・5・6）。外部の業者へ発注する場合もある。その例として、図1のようにロール状の地図を収納する Telescopic Cube Tubes（Conservation By Design Limited 製（図1））があげられる。本製品は筒の長さが 80cm から最大 150cm まで伸びるものである。この他に周囲のサ



写真3：日本製の刷毛（壁面ボードに懸けられているもの）



写真4：作業場（1）



写真5：作業場（2）



写真6：コンピュータを通じて保存箱に直接、請求記号が印字されている。

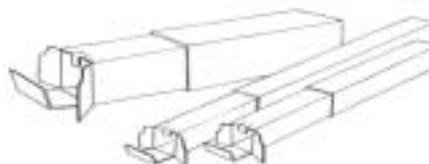


図1：Telescopic Cube Tubes。
出典：Conservation By Design limited
の製品ガイドによる。

イズの異なるものが種々ある。

筆者は大判の地図を収納した保管箱を試みに書架から下ろしてみた。それは予想以上に重量があった。保存箱のサイズ、収納枚数、置く位置等は十分に検討しなければならないと実感した。

注記：補節の執筆には、2003（平成15）年度淑徳大学学術研究助成費の一部を使用した。

注

- 1) 原資料保存の考え方に近い意見がつぎの新聞記事に掲載されている。『日本経済新聞』2003年12月17日(朝刊)社会面(第44面)文化往来欄「デジタル記録の長期保存に難題」。
- 2) Preservation と Conservation は異なる概念である。Preservation は、資料の劣化を予防するための管理的・財政的配慮を意図している用語である。例えば、資料保存に良好な環境条件の整備。一方、Conservation は、資料の劣化を遅らせ、寿命を引き伸ばす作業(手段)を示す用語である。例えば、紙の脱酸化。